

設備診断用マシンアナライザ MK-300^{*1}

永井 勲^{*2} 竹内 一則^{*3} 和田 憲三^{*4} 寺前 克彦^{*5}

Machine Analyzer Model MK-300 for Machine Diagnosis

Isao Nagai, Kazunori Takeuchi, Kenzo Wada, Katsuhiko Teramae

われるのは簡易診断用機器と精密診断用機器である。また、後者に
使われるのは振動センサ 5~10 個程度の小規模なシステム、10~

1 はじめに

近年、設備の大型化、連続化、高速化が進んで生産性は向上し、
る。各々の機器、システム名を Fig. 1 に示す。これらは設備の重

ギヤの異常などを自動的に診断する。診断結果は大型液晶表示器 (LCD) 画面に表示される。表示項目は優勢な分析スペクトラム 10 点の周波数と振動値および本器が判断した異常の原因 (前記の

- ・トリガレベル : 振動および電圧レンジ内で連続可変
- ・トリガ極性 : 立上がり, 立下がり

(3) 解析部

周波数範囲: 10 20 50 100 200 500 1000

(DATA) A10245 (DATE '85-07-10 12:34) Y:300 mSEC 85-07-19